清正公白川絵地図

KIYOMASA ILLUST MAP

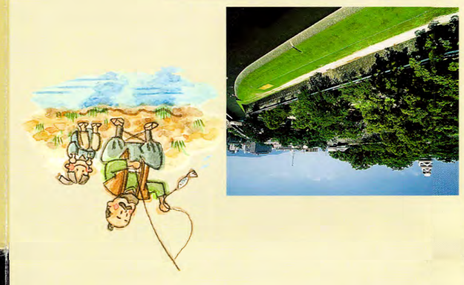
建設省九州地方建設局

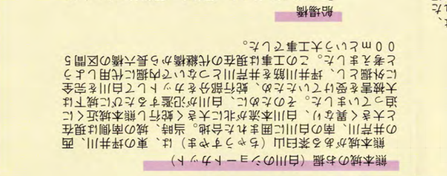
立野ダム工事事務所

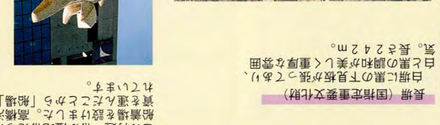
〒862熊本市下南部1丁目4-73

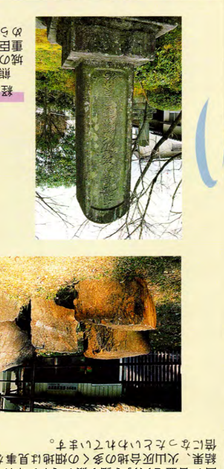
TEL 096 (385) 0707 FAX 096 (387) 6243

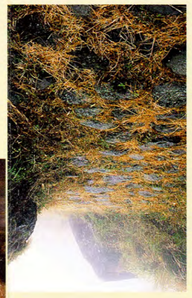
白川は、古くから大氾水に度々見舞われています。特に、昭和28年6月26日の洪水は"白川の悲劇"として知られています。立野ダムは、白川の水害防除を目的とするダム(治水専用ダム)として建設中です。

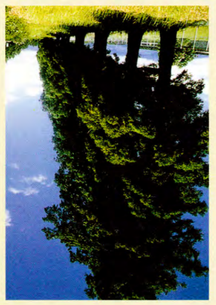


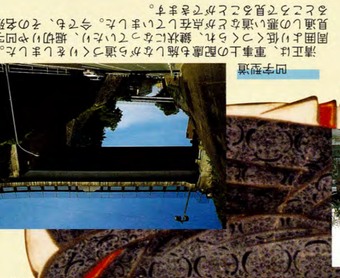


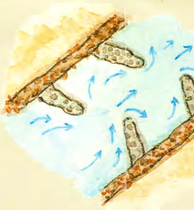


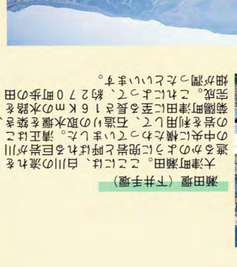


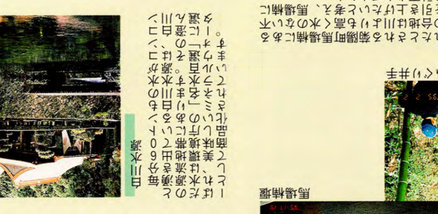


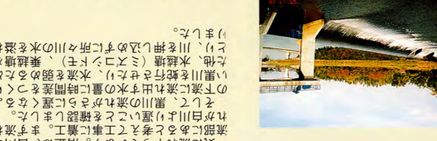


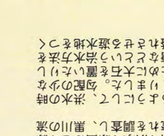












清正公と白川絵地図

本妙寺

せいしょこさんは法華経を厚く信仰していました。本妙寺はもともと熊本城内にありましたが清正の廟である中尾山に移されました。せいしょこさんを偲んで報恩会も行われます。

石刎

川の流れを遅くするためにせいしょこさんは石刎(イシバネ)を岸から出しました。これによって水の勢がやわらげられ、流れが中央にもどって堤は壊れないことになります。

熊本城

(慶長十二年(1607年)
城づくりの名人であるせいしょこさんは、自分の心血を注いで最高傑作のお城をつくりました。銀杏城と呼ばれるこの城は明治10年、西南の役で焼けましたが再建されいまもくまもとのシンボルとして愛されています。

大津街道の杉並木

せいしょこさんは道づくりにも精を出しました。清正によって植えられた屋久杉の並木が続きます。道幅は三十六メートルもあり約十五キロにもわたっていました。

一夜塘

塘はいわゆる堤防のことでせいしょこさんが白川の洪水にそなえて一夜で作ったとされるのが一夜塘です。

鼻ぐり井手

(慶長十三年
(1608年)馬場
神堰を築いたせいしょこさんは、井手を掘ります。ここから二キロのトンネル下流に固い岩盤の山があらました。それを掘り抜いてトンネルを通すことになりましたが、もともと白川は多くのヨナを含んでおり、ヨナがつもって水路がつまることにもなります。こんな問題を独特の工夫で切り抜けたのが鼻ぐり井手です。

渡鹿堰

白川でいちばん大きな堰です。ふつうは川の流れに直角ですが、ここの堰は斜めに突き出しています。この堰から一の井手、二の井手、三の井手と分水しながら熊本平野(一〇八三町歩)を灌漑しています。

瀬田堰

(下井手堰)

ここには川の流れをさえぎるかのように大きな鏡岩とよばれる巨岩が川の中央にありました。阿蘇大明神が掘ったという言われのある大きな石です。せいしょこさんはそんな岩をいかして堰を築き大津・菊陽の田畑を潤しました。

石塘

坪井川・白川が入り乱れた大湿地帯でした。そこでせいしょこさんは坪井川と井芹川をつないで白川との間に石塘を築いて白川と合流しないようにしました。

加藤清正

せいしょこさんの愛称で親しまれている加藤清正。清正は一五六二年、尾張中村(現名古屋市)で生まれました。秀吉にとりたてられ肥後半領二十五万石の領主としてやってきたのが弱冠二十六歳でした。

初めは肥後半分の領主だったので、菊池川の改修から取り組んだのです。

孫六、孫七、孫八の三孫や飯田覚兵衛をお供に、上流黒川から河口まで川の状態をつぶさに見てまわりました。この清正は白川で堰を築き、井手を掘り、さまざまな工夫をして田畑を豊かにしています。

また、大津街道など道づくりにも力を注ぎ、いまのくまもとのいしずえを造ってくれました。

鳥帽子兜